



日本笑い学会

三重支部



日本笑い学会とは

<http://nwgk.jp/introduce/index.html>

人は誰でも笑うが、もし笑わなかったとしたら、この世はどうなるだろう？
また、笑いのない人生なんて考えられるだろうか？

「笑い」に強い関心をお持ちの方なら、だれでも入会できる「市民参加型」の学会。会員は、北海道から沖縄までほとんどの県に及んでおり、その職業も大学教員、医師、作家、会社員、主婦、看護師、大学生、新聞記者、高校教諭、アナウンサー、僧侶など多岐にわたる。

現在、全国に17支部、会員数約700名に達している。

活動目的として、「笑いの総合研究」と「笑いの文化の発展」に寄与することが掲げられている。



三重支部

日本笑い学会の一支部で、2000年（平成12年）3月の理事会で設立を承認された。現在、所属している会員数は、約40名。

<活動要旨>

「笑いとユーモア」に関する総合的研究を行い、笑いに対する認識を深め、笑いの文化的発展に寄与することを目的とする。

パフォーマンスやユーモア・スピーチにとどまらず、支部員の専門分野を越えて交流を深め、さまざまな角度から、笑いについて幅広い分野の支部活動を目指すものとする。

<連絡先>

☎514-0009 津市羽所町700番地 アスト津3階
みえ市民活動ボランティアセンター
メールBOX No.23

E-Mail: waraigakkaimie@gmail.com メール待っています



FAX:059-253-2741 TEL:090-8187-6022(中村)

日本笑い学会 三重支部は、2022年10月現在、コロナ感染症の影響を受け、事実上、活動が難しくなっております。

今回、松阪市市民活動センター情報サイトに、投稿広場（投稿は会員限定）を開始しました。

<http://genki365.net/gnkm08/mypage/index.php?gid=G0000742>

微笑みをお忘れの方、楽しい話を聞きたい方、ぜひ、ご覧ください。

<日本笑い学会三重支部 投稿広場 初号>

新型コロナウイルスは、さまざまに変異を遂げて遠く宇宙の彼方へと去ってくれません。私達の支部総会もここ3年間中止となっており、皆さんの顔も、今度会ったら「誰やったかいな」となりかねません。とは言え、時間は経って行きますから、年をとっていきます。私など三つ年を取りましたので、お迎えがきたら「ちょっと留守しています」と居留守を使うわけにもいかないでしょうから、ちょっとでも忙しい振りをしていた方が良いのではと投稿させていただきました。

在宅が多いので、我が家の庭の草木を見つめる時間が長くなりました。山桃の老木があって、小鳥がよく来ます。糞をよくしてくれますので、毎年違った草木が芽を出します。どんな草木かと観察していますと、それらはすぐに生い茂ります。自然の変化に魅入られて、雑草の手入れが出来ないのですが、暫くは、野草の小さな花々を愛でながら、五七五にならないかと頭の体操をします。川柳や俳句などとは考えず、要は日本語の五七五に収めるという考えだけで詠みます。上手下手を考えては詠めません。

最近のメモから—「山桃の下で賑わう草木かな」

「昼寝して夕陽と朝日を勘違い」

「爽やかな朝風あびてキーを打つ」

「雨が降る止んだ隙間で蝉が鳴く」

「音がして花火と気づき起き上がる」

等々です。

(井上宏)